

平成 29 年度表彰について

公益社団法人におい・かおり環境協会

表彰委員長 藤倉 まなみ

平成 29 年度の表彰を平成 30 年度定期総会懇親会において行うこととし、各賞選考部会における検討結果を受けて表彰委員会で審議し、各賞の受賞候補者を決定し、平成 29 年度第 4 回理事会で承認を得て、以下の通り、各賞の受賞者を決定した。

(敬称略、以下同様)

1. 功労賞

功労賞は本協会の発展に貢献もしくははにおいに関する分野において特に優れた功績を認められた個人に贈呈されるものであり、50 歳以上の者を対象とする。受賞者は以下のとおりである。

○ 鈴木 茂 (元エヌエス環境株式会社)

(授賞理由)

鈴木茂氏は、平成 13 年～26 年に亘り、本協会の理事として、協会財務改善など協会の運営に大いに貢献されました。また、東北の震災時には、協会の救援活動において被災地の防臭・脱臭対策にも大いに尽力されました。長年に亘り協会の発展や臭気対策に尽くされた功績は誠に多大である。

2. 学術賞

学術賞ははにおいに関する一連の論文、著作等、学術的研究成果が特に優れた個人に贈呈されるものであり、30 歳以上の者を対象とする。受賞者は以下のとおりである。

○ 長谷川 登志夫 (埼玉大学大学院)

(授賞理由)

長谷川登志夫氏は、香気素材の重要香気成分を、におい受容機構に基づいた独自の香気評価方法によって解明してきた。様々なにおい分子の構造を系統的に変えることで得られた「においと構造の関係」についての研究成果から、におい受容機構における受容体が類似構造と認識する具体的な構造要因を見出すなど、においの基礎および応用研究において優れた成果を挙げている。

○ 吉井 文子（別府大学）

（授賞理由）

吉井文子氏は、においと分子の特長との相関性について、主に計算化学的手法を用いて解明してきた。におい分子の立体構造・電子構造・疎水性などの化学的特徴をコンピューターで計算しフレーバデータベースを作成している。また、抗菌活性測定法を信頼性の高い方法に改変し、かおり分子の組合せによる抗菌活性の向上を示すなど、におい関連分野の研究・技術開発に優れた成果を挙げている。

3. 技術賞

技術賞は、個人又はグループで、においに関する調査研究又はにおい対策技術等に関して顕著な貢献があったと認められた個人、法人、団体・グループに贈呈されるものである。受賞者は以下のとおりである。

○ 小林製薬株式会社

（授賞理由）

定量化の難しい感覚的消臭について、段階的に濃度を変化させた臭気を認知したか否かを答えさせることにより感覚的消臭効果を定量化するという、認知臭気濃度法を開発した。この手法は、消臭効果を高い精度で評価することが期待でき、臭気対策技術の発展に有用であり、貢献は多大である。

4. におい・かおり環境賞

においの街づくりなどの良好なかおり環境の向上に顕著な貢献があったと認められた個人、法人、団体・グループに贈呈されるものである。受賞者は以下のとおりである。

○ 秋田典子（千葉大学大学院）

（授賞理由）

秋田典子氏は、東日本大震災以降、学生とともに緑化活動を通じた被災地の支援を行っている。仮設住宅、仮設商店街、浸水エリアなどで、地域の方と協働で、花と緑のかおりに溢れたガーデンづくりや緑化活動などを行っている。被災地を彩る花は未来の希望を感じさせるかおりにもなっており、良好なかおり環境の創出、地域のかおり環境の向上に顕著な貢献がありました。